

巻頭言

校長 森田淳士

本校のスーパーサイエンスハイスクール（SSH）事業の取組も、第Ⅰ期の5年を含めると通算8年目となりました。特に、今年度は第Ⅱ期の中間評価の年度でした。これまでの取組を精査・検証し、成果や課題に対する改善策をまとめ、第Ⅱ期の4・5年次の取組に反映させるようにSSH事業を進めてきました。

本校では、第Ⅱ期の研究テーマの1つに『探究の「問い」を創る授業』を掲げています。SSH事業スタート時は理数系教科を中心とした研究開発でしたが、近年では様々な教科の先生方も積極的に取り組むようになりました。年々と多様なテーマが増えており、コンテンツベースからコンピテンシーベースへ教科の視点も移行している状況です。今後は蓄積された「問い」のデータベースをどのように活用し、生徒の育成に反映させるかという課題解決に取り組んでいきたいと考えています。

次に、第Ⅱ期の課題研究では、SSH本来の目的を達成するために設けているSSコースでの取組に加えて、理数系にとらわれないテーマで課題研究を進めるGS課題研究に取り組むことにしています。SS課題研究は、第Ⅰ期からの取組により研究内容の深化や広がり効果が表れています。GS課題研究では、理数系に特化していないことで多様なテーマが設定されており、大変興味深い効果が表れています。特にSS課題研究と違いが感じられるのは、小中学生でもよくわかる研究内容であるということです。身の回りにあるちょっとした疑問などが研究テーマになっていることで、調査分析も分かりやすく、理解する際も多くの知識が必要とされない研究もあるということです。小学生などに研究発表を聴いてもらう機会ができれば、SSH事業の地域への還元も一層進むと考えられます。

最後に、今年度はSSH事業が新型コロナウイルスの感染拡大により大変な影響を受けました。特に、生徒が国内外に移動する取組はすべて中止または変更されました。校外での活動は、学校で取り組んだ活動・研究を発信し、専門家の先生から助言等をいただくことで、一層の研究の深化やプレゼンテーション能力の育成に効果があります。校外での発表機会が奪われたことは大変残念でした。その代替としてリモートでの発表が中心になりました。本校は、昨年度3月の休校期間から迅速に学習管理システムの運用やオンラインシステムでの学習活動を県内で先進的に取り組むことができました。この契機となったのはSSH運営指導委員会での委員の方々からの助言でした。学習ポートフォリオの対策として、学習管理システムの運用の提案をいただき、休校期間に入る前から準備を始めていたことが大きな成果につながりました。休校期間中の学習指導やSSHの成果発表会の企画運営など先進的に進めることができました。また、学校と市民会館の2カ所を結んだ成果発表会も効果のある新たな取組でした。新たな取組は今後のSSH事業の改善された取組に発展していくと考えます。ご意見をいただいた運営指導委員の皆様には深く感謝しています。

最後に、本事業に御指導を賜りました文部科学省、JST、SSH運営指導委員、県内外の研究機関・教育機関・そして県教育委員会の皆様方に心より感謝申し上げます。また、本事業報告書を御覧いただき、更なる御指導・御助言をいただければ幸いです。